

医療の現場から～市立病院発第1回～（広報やまと平成20年10月15日号掲載）

関節リウマチと膠原病

今回から始まるこのコラムでは、身近な病気を取り上げ、その症状や治療について分かりやすく解説していきます。

【関節リウマチとは】

関節リウマチは、膠原病・自己免疫疾患という疾患群の一種で、手足をはじめとする全身の関節に激しい痛みやはれを起こします。日本では毎年約1万5千人が発症し、現在約70万人（人口の約0.6%）が治療を受けているといわれています。

【関節リウマチの症状と治療】

初期症状は一般的に、手足の指や手首の痛みとはれで、慢性化して進行すると、四肢の大きな関節がはれてきます。放置すると次第に炎症が重くなり、関節軟骨の破壊から骨の破壊へと進行、関節が変形し始め、やがて関節が動かなくなります。肺、皮膚、心臓、目などに症状が出ることもあります。

関節リウマチは、抗リウマチ薬、ステロイドホルモン、免疫抑制剤、消炎鎮痛剤の投与や、リハビリ、手術などで治療します。近年、生物学的製剤の登場により、飛躍的に治療が進歩しています。

市立病院リウマチ科では、患者さんに適応があれば積極的に投与しています。

【膠原病の種類と症状】

膠原病には、関節リウマチのほかに全身性エリテマトーデス、強皮症、皮膚筋炎、シェーグレン症候群、ベーチェット病、成人スティル病、リウマチ性多発筋痛症などがあります。

膠原病では、免疫の異常により血管や結合組織に炎症が起こり、さまざまな臓器が病変します。原因不明の発熱、倦怠感、関節痛、筋肉痛、手指のこわばり、皮疹、寒くなると手の指が白色や紫色になるレイノー症状などは、膠原病の可能性があるので、早めに受診したほうがよいでしょう。

（このコラムは市立病院総務課、(260) 0111 が担当しています。）

市立病院総務課 . (260) 0111 が担当しています。）